



# 信愛館だより

Vol.142  
2023年5月号

発行/ケアハウス信愛館  
近江八幡市北之庄町492-2  
TEL/0748-32-2220  
FAX/0748-33-7555  
http://www.shinaikan.com  
Mail/vories@zb.ztv.ne.jp

みよ、兄弟達が一つになって共に住むことは、(詩篇133の1)  
なんといいあわせ、なんといい楽しさであろう

## 「一通の手紙」

社会福祉法人 近江兄弟社地塩会  
ケアハウス信愛館 施設長 渡辺久子

故郷に想いを馳せるとき思い出すのは、高千穂の山々と強く生きた父のことです。

遠い日のことですが、深く折り目を付けた便箋に指を添わせながら書いたであろう手紙が届きました。父は働き盛りの四十歳代で失明したのです。病気によるものでした。

当時の私は看護学生として親元を遠く離れ寮生活を送っていました。父からの手紙は有難くもあり煩わしい思いもございました。

父は親の代から左官業を営んでいましたが、失明後はマッサージ師となり、朝早くから夜遅くまで働いていました。幼い私は、マッサージを頼まれたお宅まで父の手を引いてよく出掛けました。父はまるで時計の針が見えているかのように、一人にかかる時間はぴったりの一時間です。母は私を気遣い手作りの団子や芋飴を持たせてくれたのを今もよく覚えています。

ささやかな暮らしの中で、父を頼りに家族の絆は強く、私たち兄弟三人をさほど不自由なく育ててくれました。皆で支え合って過ごした日々は楽しい時でした。

そして私は看護師となり病院勤務を始めました。まもなく結婚し二人の子供にも恵まれとても充実した日々を送っていました。そんな私の身体に異変が起こったのは、四十歳の頃の事です。突然の発症に大きなショックを受けました。それから十年余り仕事を続けながら入退院を繰り返し手術を何度も受けました。あの時の父からの手紙がよぎったのはその頃の事でした。

「どんなに辛くとも、どんなに苦しくとも、天の神がそれを観て、地の仏がそれを感じ何より己が一番知っていることだから、決して挫けることなく明るく前だけを向いて進むべし。」

この一通の手紙は、今も私のところに沁みる思いが致します。そして私を支えてくれるための、最初で最後の手紙だったように思います。

父の生前に子供を連れて里帰りした時、愛おしそうに胡坐の中に孫を抱く姿が、今も思い出されます。私の唯一の親孝行だったのかも知れません。

お父ちゃん、深い愛情と祈りを込めた手紙をありがとう。

感謝



## キリスト教 あいうえお (2巡目) — 「隅 (すみ) の親石」

近江金田教会牧師 横田 明 典

マルコによる福音書に「家を建てる者の捨てた石。これが隅の親石となった。(12:10)」と、イエス・キリストが旧約聖書の詩編を引用して、語る場面があります。

当時は石造りの家でしたので、家の四隅に親石を置き、それを土台として家を建てていました。木造建築で言えば「大黒柱」といったところでしょうか。

イエス・キリストは当時のユダヤ教の指導者たちによって捕らえられ、十字架につけられ、殺されてしまいましたが、三日目に復活されます。その復活を信じる人たちがキリスト教を形づくっていくことになり、やがて世界宗教へと広がっていきます。

冒頭の言葉は、そのイエス・キリストの十字架の死と復活を言い表しています。指導者層が不必要なもの、邪魔なものとして捨てた石が、実は隅の親石となり、家の土台となる。逆説的な言い方ですが、イエス・キリストの生涯、キリスト教のあり方を端的に言い表す言葉だと思います。

また、神様のなされる業というのは、人間の思いをはるかに超えて働かれることを示した言葉とも言えます。



ケアハウス信愛館 係長 和泉 礼子

栄養士として入職して、周りの皆様方からあたたかい笑顔に支えられながら2年が経ちました。

この度、係長として責任のある立場になりました。これからも、入居者の皆様方が楽しく、そして安心して生活できるようサポートしていきたいと思っております。ご要望やご不明な点がございましたら、お気軽にお声掛けください。

## ケアハウス信愛館の日常

### ◆ ひな人形飾り付け ◆



ひな人形を飾りながら、昔話に花が咲きます。  
立派な七段飾りに来館の方々からも好評の声が聞かれました。

◆ 妹背の里 お花見ツアー (3月28日・30日) ◆



心地よい春の  
陽気の中、満開の桜を  
めでてきました。



◆ ヴォーリズの愛した「聖書に聴く会」 (4月21日) ◆



入居されている方々の  
想いの詰まった素敵な会。  
毎月1回開かれます。



◆ 信愛館の季節の移ろい ◆



3階庭園や玄関ポーチには四季折々の  
花々が私たちを楽しませてくれます。  
皆様方の丁寧なお世話の賜物です。



◆折々の食事より◆

2月3日節分

助六寿司、いわしの生姜煮と大豆の煮物。一年の健康を願いながら。



3月3日桃の節句

散らしずし、菜の花の和え物、甘酒、ババロア。春らしいメニューになりました。



1月20日誕生会

寿司盛り合わせ、辛子和え、すまし汁、和風プリン。

誕生日会は皆でお祝いできることを感謝しながら…。工夫を凝らしたメニューに皆さん笑顔がこぼれます。



4月21日誕生会

竹の子御飯、天ぷら盛り合わせ、ふきの煮物、茶わん蒸し、抹茶プリン。



5月に入り、日差しもだんだんと初夏らしく、新緑が美しい季節となりました。

5月8日より新型コロナウイルスの位置づけが2類相当から5類へと変わりました。行政からの要請から、個人の選択や判断で行動できることとなります。しかし、感染力は変わりありません。これまでの取り組みは続け、バランスの良い食事と、十分な睡眠、適度に体を動かしながら体調管理に努めていきたいと思います。(感謝)

